

プレゼンテーションソフトを使った視覚教材の一工夫 ～漢字の創作（Tシャツに書く）に向けて～

芸術 書道Ⅱ 第3学年
石川県立金沢商業高等学校・教諭

1 事例の概要

3年生自由選択書道Ⅱ「漢字の創作」の単元で、一字作品をTシャツに書くという授業を行った。「創作」はいわゆる「手本」がないため、自分の表現にこだわり、自己の内面と向き合うことが大切になってくる。指導の工夫として、生徒各自のイメージを膨らませるためにプレゼンテーションソフトを使って視覚教材を作成した。写真と書作品を鑑賞することでイメージを感じ取る力を育てることを目的として、国内や世界各国の様々な山の写真と、その山のイメージをもとに書いた「山」という文字の作品を並べて鑑賞させるものである。古典作品から子供たちの作品まで幅広い作品を取り入れ、創作の魅力や自己表現について考えさせることにも配慮した。

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・生活の中に書を取り入れようとする意識を持つとする。 【関心・意欲・態度】
- ・漢字の少数字作品の創作により、点画の組み合わせによる構成の多様さなどを学び、表現を工夫する。 【芸術的感受や表現の工夫】
- ・表現意図に応じた表現方法を工夫し表現する技能を身につける。 【創造的な表現の技能】
- ・鑑賞により書の良さや美しさを味わい、表現との関連を図る。 【鑑賞の能力】

(2) 指導上の工夫点

- ・本教材を用いることにより、文字からイメージを膨らませることを目標の一つとするが、積極的に鑑賞できるよう質問形式で働きかけながら授業を展開する。又それぞれの作品の表現意図を説明させ、感動の中心を伝える活動を取り入れる。
- ・視覚だけではなく、語源を説明し漢字の意味からもイメージを膨らませるようにする。
- ・実際に生徒に書かせる前に水書板で師範を行うことにより、意欲を高めさせる。
- ・途中で生徒の作品を随時黒板に貼り、評価することで更に学びを深めさせる。

3 指導の実際（本時）

- ・イメージにあう作品を創作するために、さまざまな作品を鑑賞させる。
- ・仙崖や他の人々の作品を鑑賞し、線質と形、墨色の変化などについて確認させる。
- ・さまざまな「山」の作品の鑑賞をとおして、文字とイメージの関係について確認させる。
 - ①題材からイメージするものを書き出し、イメージを明らかにさせる
(随時、表現意図を発表させる)
 - ②いろいろな作品の中から参考となるものを選ぶことで、イメージをふくらませる。
- ・自分の良さを出すことを念頭に置いて作品を作らせる。

4 成果と課題

(1) 意識を高める授業について

生徒の到達欲求は多様である。満足のレベルを高く設定するためには、美しいものに触れさせたり、表現の喜びや書の魅力などを感じさせるなど意識を高める授業の工夫が必要である。今回は視覚教材を取り入れ、視覚で感じさせたいと考えた。教師が学習活動の内容を予告し、プロジェクターを準備する過程で、生徒も関心を高め、意欲を持ったようであった。

鑑賞後、生徒たちが何度も練習している姿から、Tシャツなど身近な素材に書くという設定も到達欲求を高める一つの方法だと感じた。色違いのTシャツ2枚が準備されたことを知り、早速自分の課題を変更して、両親にプレゼントするためにそれぞれのTシャツに「父」「母」と書いた生徒がいた。練習が無駄になったという点では残念であったが、生活に書を取り込むという観点では成功かも知れないと考えた。生徒たちも、素材によって表現の目的や効果が変わることを実感し、素材選定の重要性を再認識した面もあった。

(2) 感性を育てる授業について

創作において、表現しようとする意識をもつこと、言葉を選ぶこと、イメージを持つこと、造形すること、表現の喜びを感じるなど、大切なことはいろいろあるが、「感覚をとぎすませる」ことは重要な要素である。芸術の授業だからこそできることである。今回は山の写真を見せることで、写真から感じる山のイメージと文字のイメージの共通点を感じ取らせたいと考えた。鑑賞の授業について、そして視覚以外でもいろいろな方法を今後も試みていきたい。

今回の指導では、授業の最初に呼吸法を取り入れた。呼吸に意識を向けることで、考えることをやめ無心になることが出来たと考えている。また、音と文字との結びつきを感じたことによって表れる味わい深い線があるということを実感した生徒もいた。

(3) 鑑賞と表現について

学習指導要領には、評価の観点として「表現」、「鑑賞」2つの項目が挙げられている。鑑賞の授業は難しいが、生徒の感性を育てるためには不可欠である。臨書は自ずと鑑賞活動に通じ、鑑賞は表現に生かされる。鑑賞だけを強調した授業を行ったり、授業の冒頭で鑑賞の要素を取り入れるなど、鑑賞と表現の関連を意識させながら指導を行うことが重要であると考えられる。

(4) 自ら学ぶ授業について

「見て書くことで生徒は自ら学ぶ。」見る力がある生徒にはできるだけ教師は自ら学ぶことをさせたいと思うが、見る力がない生徒にどのようにその力をつけさせるか、一斉授業の中では非常に難しい点であり、工夫すべき点の一つであると思う。教師が出過ぎても自ら学ぶ力とはならない。書くことと学ぶことのバランスをとることが重要である。今回は特に生徒の感想は求めなかったが、仕上がったTシャツを着て写真を撮る生徒がいるなど、満足そうな様子を確認することができた。一生懸命取り組んだ結果自分の納得できる作品を誇りに思う様子が観察でき、指導した私も達成感を感じた。

D-1 生徒完成作品